

小児科
急性呼吸器感染症
患者定点マニュアル

2026年6月

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課
(東京都感染症情報センター)

目次

小児科定点医療機関の報告手順.....	2
報告基準	4
1 RSウイルス感染症.....	4
2 咽頭結膜熱.....	5
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6
4 感染性胃腸炎.....	7
5 水痘	8
6 手足口病.....	9
7 伝染性紅斑.....	10
8 突発性発しん	11
9 ヘルパンギーナ	12
10 流行性耳下腺炎.....	13
11 インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	14
12 新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）	15
13 急性呼吸器感染症.....	16
14 不明発しん症 （都単独）	17
15 MCLS（川崎病） （都単独）	17
別添1 感染症サーベイランスシステム定点報告入力時の留意事項	18
別添2 （FAXの場合）報告様式及び記入例	27

小児科定点医療機関の報告手順

貴医療機関で診断した以下の報告対象疾患の患者数を、年齢別・男女別に集計してください。報告基準は4ページから17ページを参照してください。

報告単位

月曜日から日曜日までの1週間を単位とします。

報告時期及び方法

当該週の最終日の診療が終了しましたら、以下のいずれかの方法で管轄保健所へ報告してください。

(1) 感染症サーベイランスシステムへの直接入力

18～26ページを参照し、システムに入力してください。

※感染症法改正により、令和5年4月1日から感染症発生届等については、感染症サーベイランスシステム上での報告が努力義務化されています。

● 東京都保健医療局「感染症サーベイランスシステムについて」

(ユーザーアカウントの申請・システム入力時の留意事項等)

https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/taisaku/kansensyo_system_information

(2) (1)の方法により報告できない場合、管轄保健所へのFAXによる報告

17ページの報告用紙に記入してください。記入例を18、19ページに示してあります。

※報告の具体的な方法は、管轄保健所の示す方法により行ってください。

留意事項

当該患者がいない週や、休診時の報告方法は、以下のとおりとしてください。

(1) 感染症サーベイランスシステムによる報告の場合

ア 医療機関は稼働していたが、当該患者がいない場合

全て「0」を入力するか、空欄のまま登録ボタンを押下してください。

イ 当該週は全日休診だった場合（例えば年末年始など）

システム上での登録は行わず、未登録としてください。

また、管轄保健所に「〇月〇日～〇月〇日は全日休診のため、未登録としている」旨をご連絡ください。

(保健所では、システムの仕様上、入力漏れであるか、全日休診により未登録であるかの判別ができないため。)

(2) FAXによる報告の場合

- ア 医療機関は稼働していたが、当該患者がいない場合
記入欄に、「全て0件」と記入してください。詳細は、29ページの記入例を参照してください。
- イ 当該週は全日休診だった場合（例えば年末年始など）
管轄保健所に「当該週はすべて休診だった」旨をご連絡いただくか、記入欄に「〇月〇日～〇月〇日全日休診」と記入してください。

情報の集計及び還元

定点医療機関からのデータは、保健所を通じて、都及び国に報告されます。集計結果は東京都感染症情報センターおよび国立健康危機管理研究機構の下記のホームページで公表され、定点医療機関にも還元されます。

- 東京都感染症情報センター <https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>
- 国立健康危機管理研究機構 <https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/index.html>

1 RSウイルス感染症

(1) 定義

RSウイルス (respiratory syncytial virus) による急性呼吸器感染症である。乳児期の発症が多く、特徴的な病像は細気管支炎、肺炎である。

(2) 臨床的特徴

2日～1週間(通常4～5日)の潜伏期間の後に、初感染の乳幼児では上気道症状(鼻汁、咳など)から始まり、その後下気道症状が出現する。38～39℃の発熱が出現することがある。25～40%の乳幼児に気管支炎や肺炎の兆候がみられる。

1歳未満、特に6か月未満の乳児、心肺に基礎疾患を有する小児、早産児が感染すると、呼吸困難などの重篤な呼吸器疾患を引き起こし、入院、呼吸管理が必要となる。乳児では、細気管支炎による喘鳴(呼気性喘鳴)が特徴的である。

その後、多呼吸、陥没呼吸などの症状あるいは肺炎を認める。新生児期あるいは生後2～3か月未満の乳児では、無呼吸発作の症状を呈することがある。再感染の幼児の場合には、細気管支炎や肺炎などは減り、上気道炎が増える。中耳炎を合併することもある。

(3) 届出基準

ア 患者(確定例)

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見からRSウイルス感染症が疑われ、かつ、(4)の表の左欄に掲げる検査方法により、RSウイルス感染症患者と診断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

この場合において、検査材料は、同欄に掲げる検査方法の区分ごとに、それぞれ同表の右欄に定めるもののいずれかを用いること。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、RSウイルス感染症が疑われ、かつ、(4)の表の左欄に掲げる検査方法により、RSウイルス感染症により死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

この場合において、検査材料は、同欄に掲げる検査方法の区分ごとに、それぞれ同表の右欄に定めるもののいずれかを用いること。

(4) 届出に必要な検査所見

検査方法	検査材料
分離・同定による病原体の検出	鼻腔吸引液、 鼻腔拭い液、 咽頭拭い液
迅速診断キットによる病原体の抗原の検出	
中和反応又は補体結合反応による抗体の検出(補体結合反応にて、急性期と2～3週間以後の回復期に抗体陽転又は抗体価の有意の上昇を認めれば確定)	血清

2 咽頭結膜熱

(1) 定義

発熱・咽頭炎及び結膜炎を主症状とする急性のウイルス感染症である。

(2) 臨床的特徴

潜伏期は5～7日、症状は発熱、咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）、結膜炎が三主症状である。アデノウイルス3型が主であるが、他に4、7、11型なども本症を起こす。発生は年間を通じてみられるが、さまざまな規模の流行的発生をみる。特に夏季に流行をみることがある。

(3) 届出基準

ア 患者（確定例）

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見から咽頭結膜熱が疑われ、かつ、(4)により、咽頭結膜熱患者と診断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、咽頭結膜熱が疑われ、かつ、(4)により、咽頭結膜熱により死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な臨床症状（3つすべてを満たすもの）

ア 発熱
イ 咽頭発赤
ウ 結膜充血

3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

(1) 定義

A群レンサ球菌による上気道感染症である。

(2) 臨床的特徴

乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎が現れ、発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱といわれる全身症状を呈する。気管支炎を起こすことも多い。発疹を伴うこともあり、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの二次疾患を起こすこともある。

(3) 届出基準

ア 患者（確定例）

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見からA群溶血性レンサ球菌咽頭炎が疑われ、かつ、(4)を満たすか、(4)の3つすべてを満たさなくても(5)を満たし、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者と診断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が疑われ、かつ、(4)を満たすか、(4)の3つすべてを満たさなくても(5)を満たし、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎により死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な臨床症状（3つすべてを満たすもの）

ア 発熱
イ 咽頭発赤
ウ 莓舌

(5) 届出のために必要な検査所見

検査方法	検査材料
菌の培養・同定による病原体の検出	咽頭拭い液
迅速診断キットによる病原体の抗原の検出	
A S O法又はA S K法による抗体の検出（ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意の上昇）	血清

4 感染性胃腸炎

(1) 定義

細菌又はウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症である。原因はウイルス感染（ロタウイルス、ノロウイルスなど）が多く、毎年秋から冬にかけて流行する。また、エンテロウイルス、アデノウイルスによるものや細菌性のもみられる。

(2) 臨床的特徴

乳幼児に好発し、1歳以下の乳児は症状の進行が早い。

主症状は嘔吐と下痢であり、種々の程度の脱水、電解質喪失症状、全身症状が加わる。嘔吐又は下痢のみの場合や、嘔吐の後に下痢がみられる場合と様々で、症状の程度にも個人差がある。37～38℃の発熱がみられることもある。年長児では吐き気や腹痛がしばしばみられる。

(3) 届出基準

ア 患者（確定例）

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見から感染性胃腸炎が疑われ、かつ、(4)により、感染性胃腸炎患者と診断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、感染性胃腸炎が疑われ、かつ、(4)により、感染性胃腸炎により死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な臨床症状及び要件（2つすべてを満たすもの）

ア 急に発症する腹痛（新生児や乳児では不明）、嘔吐、下痢
イ 他の届出疾患によるものを除く

5 水痘

(1) 定義

水痘・带状疱疹ウイルスの初感染による感染症である。

(2) 臨床的特徴

冬から春の感染症であるが、年間を通じて患者の発生をみる。飛沫、飛沫核、接触感染で感染し、潜伏期は2～3週間である。乳幼児や学童いずれの年齢でも罹患する。母子免疫は麻しんほど強力ではなく、新生児も罹患することがある。症状は発熱と発疹である。それぞれの発疹は紅斑、紅色丘疹、水疱形成、痂皮化を順次約3日で経過するが、同一段階の皮疹が同時に全身に出現するのではなく、新旧種々の段階の発疹が同時に混在する。

発疹は体幹に多発し、四肢に少ない。発疹は頭皮及び口腔などの粘膜にも出現する。健康児の罹患は軽症で予後は良好であるが、免疫不全状態の小児の罹患は重症で、致命的経過をとることもある。

(3) 届出基準

ア 患者（確定例）

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見から水痘が疑われ、かつ、(4)により、水痘患者と診断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、水痘が疑われ、かつ、(4)により、水痘により死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な臨床症状（2つすべてを満たすもの）

ア 全身性の漿液性丘疹や水疱の突然の出現
イ 新旧種々の段階の発疹（丘疹、水疱、痂皮）が同時に混在すること

6 手足口病

(1) 定義

主として乳幼児にみられる手、足、下肢、口腔内、口唇に小水疱が生ずる伝染性のウイルス感染症である。コクサッキーA16型、エンテロウイルス71型のほか、コクサッキーA10型その他によっても起こることが知られている。

(2) 臨床的特徴

典型的なものでは、軽い発熱、食欲不振、のどの痛み等で始まり、発熱から2日ぐらい過ぎた頃から、手掌、足底にやや紅暈を伴う小水疱が多発し、舌や口腔粘膜に浅いびらんアフタを生じる。水疱はやや楕円形を呈し、臀部、膝部などに紅色の小丘疹が散在することもある。皮疹は1週間から10日で自然消退する。ごくまれに髄膜炎や脳炎などが生じることがあるので、発熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意を要する。エンテロウイルス71型による手足口病の場合にその頻度が高い。

(3) 届出基準

ア 患者（確定例）

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見から手足口病が疑われ、かつ、(4)により、手足口病患者と診断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、手足口病が疑われ、かつ、(4)により、手足口病により死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な臨床症状（2つすべてを満たすもの）

ア 手のひら、足底又は足背、口腔粘膜に出現する2～5mm程度の水疱
イ 水疱は痂皮を形成せずに治癒

7 伝染性紅斑

(1) 定義

B19ウイルスの感染による紅斑を主症状とする発疹性疾患である。

(2) 臨床的特徴

幼少児（2～12歳）に多いが、乳児、成人が罹患することもある。潜伏期は4～15日。顔面、特に頬部に境界明瞭な平手で頬を打ったような紅斑が突然出現する。つづいて四肢に對側性にレース様の紅斑が出現する。消退後さらに日光照射、外傷などによって再度出現することがある。発疹の他に発熱、関節痛、咽頭痛、鼻症状、胃腸症状、粘膜疹、リンパ節腫脹、関節炎を合併することがある。予後は通常、良好である。但し、溶血性貧血の患者では、汎血球減少を起こすことがある。妊婦の場合には、胎児水腫又は流産を起こすことがある。

(3) 届出基準

ア 患者（確定例）

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見から伝染性紅斑が疑われ、かつ、(4)により、伝染性紅斑患者と診断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、伝染性紅斑が疑われ、かつ、(4)により、伝染性紅斑により死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な臨床症状（2つすべてを満たすもの）

ア 左右の頬部の紅斑の出現
イ 四肢のレース様の紅斑の出現

8 突発性発しん

(1) 定義

乳幼児がヒトヘルペスウイルス6、7型の感染による突然の高熱と解熱前後の発疹を来す疾患である。

(2) 臨床的特徴

乳幼児期、特に6～18か月の間に罹患することが多い。5歳以上はまれである。

突然、高熱で発症、不機嫌で大泉門の膨隆をみることがある。咽頭部の発赤、特に口蓋垂の両側に強い斑状発赤を認めることがある。軟便若しくは下痢を伴うものが多く、発熱は3～4日持続した後に解熱する。

解熱に前後して小さな紅斑や紅色丘疹が出現し、散在性、時に斑状融合性に分布する。発疹は体幹から始まり上肢、頸部の順に広がるが、顔面、下肢には少ない。発疹は1～2日で消失する。脳炎を合併することがある。

(3) 届出基準

ア 患者（確定例）

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見から突発性発しんが疑われ、かつ、(4)により、突発性発しん患者と診断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

届出の対象は、上記の臨床的特徴に合致するものであるため、届出の対象は5歳未満のみとする。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、突発性発しんが疑われ、かつ、(4)により、突発性発しんにより死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な臨床症状（2つすべてを満たすもの）

ア 突然に発熱し、2～4日間持続
イ 解熱に前後して体幹部、四肢、顔面の発疹が出現

9 ヘルパンギーナ

(1) 定義

主にコクサッキーウイルスA群による口峽部に特有の小水疱と発熱を主症状とする夏かぜの一種である。多くは、コクサッキーウイルスA群2～8、10、12型、まれにその他のエンテロウイルスも病原として分離されることがある。

(2) 臨床的特徴

潜伏期は2～4日、初夏から秋にかけて、乳幼児に多い。突然の38～40℃の発熱が1～3日間続き、全身倦怠感、食欲不振、咽頭痛、嘔吐、四肢痛などがある場合もある。咽頭所見は、軽度に発赤し、口蓋から口蓋帆にかけて1～5mmの小水疱、これから生じた小潰瘍、その周辺に発赤を伴ったものが数個認められる。

(3) 届出基準

ア 患者（確定例）

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見からヘルパンギーナが疑われ、かつ、(4)により、ヘルパンギーナ患者と診断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、ヘルパンギーナが疑われ、かつ、(4)により、ヘルパンギーナにより死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な臨床症状（2つすべてを満たすもの）

ア 突然の高熱での発症
イ 口蓋垂付近の水疱疹や潰瘍や発赤

10 流行性耳下腺炎

(1) 定義

ムンプスウイルス感染により耳下腺が腫脹する感染症である。

(2) 臨床的特徴

上気道を介して飛沫感染し潜伏期は2～3週間で、両側又は片側の耳下腺が腫脹し、ものを噛むときに顎に痛みを訴えることが多い。このとき数日の発熱を伴うものが多い。耳下腺腫脹は有痛性で、境界不鮮明な柔らかい腫脹が耳朶を中心として起こる。他の唾液腺の腫脹をみることもある。耳下腺開口部の発赤が認められるが、膿汁の排泄はない。合併症としては、髄膜炎、脳炎、睇炎、難聴などがあり、その他成人男性には睾丸炎、成人女子には卵巣炎がみられることがある。

(3) 届出基準

ア 患者（確定例）

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見から流行性耳下腺炎が疑われ、かつ、(4)により、流行性耳下腺炎患者と診断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、流行性耳下腺炎が疑われ、かつ、(4)により、流行性耳下腺炎により死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な臨床症状（2つすべてを満たすもの）

- | |
|-----------------------------|
| ア 片側ないし両側の耳下腺の突然の腫脹と、2日以上持続 |
| イ 他に耳下腺腫脹の原因がないこと |

1 1 インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）

(1) 定義

インフルエンザウイルス（鳥インフルエンザの原因となるA型インフルエンザウイルス及び新型インフルエンザ等感染症の原因となるインフルエンザウイルスを除く。）の感染による急性気道感染症である。

(2) 臨床的特徴

上気道炎症状に加えて、突然の高熱、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛を伴うことを特徴とする。流行期（我が国では、例年11月～4月）にこれらの症状のあったものはインフルエンザと考えられるが、非流行期での臨床診断は困難である。合併症として、脳症、肺炎を起こすことがある。

(3) 届出基準（急性呼吸器感染症定点（インフルエンザの報告の場合））

ア 患者（確定例）

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見からインフルエンザが疑われ、かつ、(4)のすべてを満たすか、(4)のすべてを満たさなくても(5)を満たすことにより、インフルエンザ患者と診断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、インフルエンザが疑われ、かつ、(4)のすべてを満たすか、(4)のすべてを満たさなくても(5)を満たすことにより、インフルエンザにより死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な臨床症状（4つすべてを満たすもの）

ア 突然の発症
イ 高熱
ウ 上気道炎症状
エ 全身倦怠感等の全身症状

(5) 届出のために必要な検査所見

検査方法	検査材料
迅速診断キットによる病原体の抗原の検出	鼻腔吸引液、 鼻腔拭い液、 咽頭拭い液

12 新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）

(1) 定義

新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）（以下「COVID-19」という）による急性呼吸器症候群である。

(2) 臨床的特徴

臨床的な特徴としては、潜伏期間は1～10日（通常2～4日）である。主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状であり、頭痛、下痢、結膜炎、嗅覚障害、味覚障害等を呈する場合もある。高齢者及び基礎疾患を持つものにおいては重症化するリスクが一定程度あると考えられている。

(3) 届出基準（急性呼吸器感染症定点（COVID-19の報告の場合））

ア 患者（確定例）

指定届出機関（急性呼吸器感染症定点（COVID-19の報告の場合）の管理者は、(2)の臨床的特徴を有する者について、以下の表に掲げる検査方法により、当該者をCOVID-19と診断した場合又は発熱または呼吸器症状（軽症の場合を含む。）を呈する者であって、COVID-19であることが確定したものと同居している者（飲食、入浴、就寝等を共にする家族や同居者）であり、医師が総合的に判断した結果、COVID-19と臨床的に診断する場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関（急性呼吸器感染症定点（COVID-19の報告の場合）の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、COVID-19が疑われ、COVID-19により死亡したと判断した場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な検査所見

検査方法	検査材料
分離・同定による病原体の検出	喀痰、気管吸引液、肺胞洗浄液、咽頭拭い液、鼻腔吸引液、鼻腔拭い液、鼻咽頭拭い液、便、唾液、剖検材料、その他検査方法に適する材料
検体から直接の核酸増幅法による病原体の遺伝子の検出	
抗原定性検査による病原体の抗原の検出	鼻腔拭い液、鼻咽頭拭い液又は唾液
抗原定量検査による病原体の抗原の検出	鼻腔拭い液、鼻咽頭拭い液又は唾液

13 急性呼吸器感染症

(1) 定義

感染症法施行規則第1条で規定する「急性呼吸器感染症」とは、インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、オウム病及びレジオネラ症並びにRSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）、百日咳、ヘルパンギーナ及びマイコプラズマ肺炎を除くものであるが、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」における急性呼吸器感染症は、「感染症発生動向調査事業実施要綱の一部改正について」（令和7年3月14日付け感発第0314第7号厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部長通知）にあるとおり、(2)臨床的特徴を呈する感染症である。

(2) 臨床的特徴

咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例である。

(3) 届出基準（急性呼吸器感染症定点（急性呼吸器感染症の報告の場合））

ア 患者（確定例）

指定届出機関（急性呼吸器感染症定点（急性呼吸器感染症の報告の場合））の管理者は、(2)の臨床的特徴を有する者について、医師が感染症を疑う外来症例と診断する場合には、法第14条第2項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

1 4 不明発しん症

感染性のものと思われるが明確な診断をつけ難い発しん症。除外診断による。

1 5 MCL S（川崎病）

- ・本症は、主として4歳以下の乳幼児に好発する原因不明の疾患。
- ・下記の主要症状のうち5つ以上の症状を伴うものを本症とする。ただし、4つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは、心血管造影法で、冠動脈瘤（いわゆる拡大を含む）が確認され、他の疾患が除外されれば本症とする。

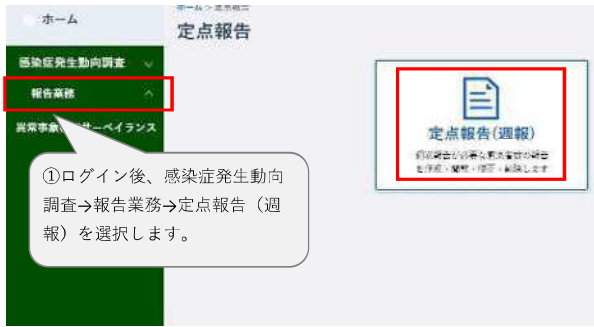
【主要症状】

- (1) 発熱
- (2) 両側眼球結膜の充血
- (3) 口唇、口腔所見：口唇の紅潮、いちご舌、口腔咽頭粘膜のびまん性発赤
- (4) 発疹（BCG接種痕の発赤を含む）
- (5) 四肢末端の変化：（急性期）手足の硬性浮腫、掌蹠ないしは指趾先端の紅斑
（回復期）指先からの膜様落屑
- (6) 急性期における非化膿性頸部リンパ節腫脹

* 川崎病（MCLS、小児急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群）診断の手引き
（日本川崎病学会、特定非営利活動法人日本川崎病研究センター、厚生労働科学研究 難治性血管炎に関する調査研究班）改訂6版2019年5月 による

感染症サーベイランスシステム定点報告入力時の留意事項 ver3.1(令和7年12月版)

小児科定点



【留意事項】

- 厚生労働省の集計作業中は定点報告の閲覧・登録ができません。入力内容を一時保存し、スタンプ集計終了後（最大90分後）に再度操作を行ってください。
- 該当がない場合も「ゼロ報告」をお願いいたします。
- 突発性発しんについては、5歳未満のみが届出対象となります。下記の注意表示が出た場合は「キャンセル」ボタンを押し、5歳以上の患者数を削除してください。

突発性発しんの届出対象は、5歳未満のみです。処理を続けますか？

キャンセル OK



定点報告入力(小児科)

⑤各疾患の年代別人数を半角数字で入力します。該当のない疾患、年代は0を入力するか、空欄のままにします。

⑥各人数の入力後、合計計算ボタンを押下します。

空欄部分には自動的に0が入力されます。

⑦合計ボタンを押下すると合計人数が計算されるため、入力した人数の合計と表示されている合計人数が一致しているかを確認します。

全角数字等が入った状態で「合計計算」を押下すると、合計値がエラーとなりますので、半角数字に修正の上、再度「合計計算」ボタンを押下してください。

備考

⑧コメント等がある場合は備考欄に入力します。

戻る 合計計算 **登録**

定点入力対象

調査期間: 2022年第44週 (2022/10/27~2022/10/28)

保健所: 137100 - 多摩府中

定点医療機関: 130000738 - サスト病院 小児科

⑨全ての入力が完了したら、画面右上の登録ボタンを押下します。

✓ ブラウザ印刷を行い、入力内容の確認は行いましたか? データの登録を行います。よろしいですか?

キャンセル OK

⑩確認画面が表示されますので、登録する場合はOK、入力画面に戻る場合はキャンセルを押下します。(ブラウザ印刷は必須ではありません。必要に応じてご対応ください)

検索条件

保健所: 東京都 | 保健所: 137100 - 多摩府中 | **定点種別: 小児科定点**

定点医療機関: 130000738 - サスト病院 小児科 | 調査期間: 2022年第44週

状態: すべて | 並び順: []

検索 | 新規登録

登録した内容を確認する場合は、定点種別、調査期間を選択し、検索ボタンを押下します。

検索結果 1件

調査期間	件数	定点医療機関	定点種別	状態
2022/10/03 ~ 2022/10/09	48	サスト病院小児科	小児科定点	入力済

検索結果に表示された結果の「定点種別」(青字箇所)を選択すると、入力内容が確認できます。

状態が「入力済」のデータは修正可能です。修正を行う場合は「定点種別」(青字箇所)を選択すると入力画面が表示されるため、修正して再度登録ボタンを押下します。なお、状態が「報告済」のデータを修正する場合は、医療機関からの修正ができないため、管轄の保健所へ連絡してください。

届出対象者の該当がなかった週の報告方法

定点報告入力(小児科)

戻る 合計計算 **登録**

定点入力対象

調査期間: 2022年第44週 (2022/10/27~2022/10/28)

保健所: 137100 - 多摩府中

定点医療機関: 130000738 - サスト病院 小児科

全疾患・全年代を空欄のまま、登録ボタンを押下します。(0を入力して登録することも可能です)

R S ウイルス感染症

性別	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20歳~	合計	41歳未満	40歳以上	20歳未満
男															0	1	1	0
女															0	2	0	0

感染症サーベイランスシステム定点報告入力時の留意事項

ver.3.1(令和7年12月版)

小児科&内科定点（インフルエンザ／COVID-19定点）

【新型コロナウイルス感染症の報告について】
2023年第19週（2023年5月8日(月)～2023年5月14日(日)分）から報告対象となります。

【留意事項】
■厚生労働省の集計作業中は定点報告の閲覧・登録ができません。
入力内容を一時保存し、スタンプ集計終了後（最大90分後）に再度操作を行ってください。
■該当がない場合も「ゼロ報告」をお願いいたします。

①ログイン後、感染症発生動向調査→報告業務→定点報告（週報）を選択します

②インフルエンザ／COVID-19定点を選択します。

③カレンダーボタンを押下し、調査期間を選択します。
※報告週の対応表は国立健康危機管理研究機構のHPから確認可
<https://id-info.jhs.go.jp/surveillance/idwr/index.html>

④定点種別、調査期間の選択後、新規登録ボタンを押下します。

過去の報告内容を確認する場合は、定点種別、調査期間の選択後、検索ボタンを押下します。

⑤各疾患の年代別人数を半角数字で入力します。該当のない疾患、年代は0を入力するか、空欄のままにします。

⑥各人数の入力後、合計計算ボタンを押下します。

性別	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	合計	37週合計
男				1	1	1												0	0
女				1	1	1												0	0

空欄部分には自動的に0が入力されます。

⑦合計ボタンを押下すると合計人数が計算されるため、入力した人数の合計と表示されている合計人数が一致しているかを確認します。

性別	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	合計	37週合計
男	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
女	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0

全角数字等が入った状態で「合計計算」を押下すると、合計値がエラーとなりますので、半角数字に修正の上、再度「合計計算」ボタンを押下してください。

備考 全角128文字以内

⑧コメント等がある場合は備考欄に入力します。改行は一文字としてカウントされます。

戻る 合計計算 **登録**

⑨全ての入力が完了したら、画面右上の登録ボタンを押下します。

🔍 ブラウザ印刷を行い、入力内容の確認は行いましたか？データの登録を行いますか？

キャンセル OK

⑩確認画面が表示されますので、登録する場合はOK、入力画面に戻る場合はキャンセルを押下します。（ブラウザ印刷は必須ではありません。必要に応じてご対応ください）

検索条件

都道府県: 東京都 保健所: 137100 - 多摩府中 **定点種別: インフルエンザ/COVID-19定点**

定点医療機関: 130000738: テスト病院 内科 調査期間: 2023年第19週

状態: すべて

並び順: 昇順 降順

検索 **新規登録**

登録した内容を確認する場合は、定点種別、調査期間を選択し、検索ボタンを押下します。

検索結果 1件

調査期間	週	定点医療機関	定点種別	状態
2022/10/08 - 2022/10/08	48	テスト病院内科	インフルエンザ/COVID-19定点	入力済

検索結果に表示された結果の「定点種別」（青字箇所）を選択すると、入力内容が確認できます。

状態が「入力済」のデータは修正可能です。修正を行う場合は「定点種別」（青字箇所）を選択すると入力画面が表示されるため、修正して再度登録ボタンを押下します。なお、状態が「報告済」のデータを修正する場合は、医療機関からの修正ができないため、管轄の保健所へ連絡してください。

届出対象者の該当がなかった週の報告方法

戻る 合計計算 **登録**

⑪全疾患・全年代を**空欄のまま**、登録ボタンを押下します。（0を入力して登録することも可能です）※以下の画面はインフルエンザですが、新型コロナウイルスも同様です。

定点入力対象

調査期間: 2023年40週 (2023/10/17 ~ 2023/10/23)

保健所: 137100 - 多摩府中

定点医療機関: 130000738: テスト病院 内科

インフルエンザ

週	-5 ヶ月	-11 ヶ月	1週	2	3	4	5	6	7	8	9	10~ 14	15~ 19	20~ 29	30~ 39	40~ 49	50~ 59	合計	41週合計	40週合計	39週合計
1																		0	0	3	0
2																		0	0	3	0

感染症サーベイランスシステム定点報告入力時の留意事項
ver1.0(令和7年4月版)

急性呼吸器感染症定点

①ログイン後、異常事象検知サーベイランスを選択します。

②登録/編集を選択します。

③定点報告・急性呼吸器感染症定点（合計数の報告）を押下します。その後【パターンA 手入力による報告方法】か【パターンB CSVインポートによる報告方法】のどちらかをお選びいただき、各項目へ進んでください。

【急性呼吸器感染症の報告について】
2025年第15週（2025年4月7日(月)～2025年4月13日(日)分）から報告対象となります。

【留意事項】
■厚生労働省の集計作業中は発生届の閲覧・登録ができません。集計の日程は「ホーム画面」の「お知らせ」に掲載されますので、ご確認ください。
■該当がない場合も「ゼロ報告」をお願いいたします。

パターンA 手入力による報告方法

サーベイランス情報 登録・照会 > 登録/編集

登録状況確認 - サマリー

サーベイランス基本情報

サーベイランス名	定点報告・急性呼吸器感染症定点(合計数の報告)		
実施主体	国		
報告方式	サマリー方式	報告周期	週次
調査期間	2025年03月03日 ~ 2099年12月31日	登録期間	2025年03月03日 ~ 2099年12月31日
報告レベル	医療機関等	確認レベル	県市

登録状況

報告担当組織:
指定週を基準に表示する 年 週

CSVテンプレートダウンロード

CSVファイル指定 選択されていません

登録状況一覧

報告週	登録/確認ステータス
2025年11週	未登録
2025年10週	確認待ち

④入力したい報告週をクリックします。

報告情報

任意管理ID

ゼロクリア

急性呼吸器感染症(インフルエンザ、COVID-19、小児科定点対象疾患(RSウイルス感染症等)を含む合計数を登録)

	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳
男	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>
女	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>

備考(必須)

一時保存 更新

⑤ 押下すると入力値がすべて0になります。

任意管理IDは入力不要です。

⑥ 性別と年齢区分別に報告数を半角数字で入力してください。

⑦ 備考欄が必須入力となっているため、特記事項がない場合も「入力済み」と入力してください。

⑧ 全ての入力が完了したら、「更新」ボタンを押下してください。

確認画面

更新完了しました。

確認

⑨ 登録が完了すると確認画面が表示されます。「確認」ボタンを押下してください。

登録状況一覧

<<先頭頁 前頁 次頁 最終頁>>

報告週	登録/確認ステータス
2025年10週	確認待ち

⑩ 入力した週の登録/確認ステータスが「確認待ち」となっていれば入力完了です。

パターンB CSVインポートによる報告方法

サーベイランス情報 登録・照会 > 登録/編集

登録状況確認 - サマリ -

サーベイランス基本情報

サーベイランス名	定点報告・急性呼吸器感染症定点(合計数の報告)		
実施主体	国		
報告方式	サマリ方式	報告周期	連次
調査期間	2025年03月03日 ~ 2099年12月31日	登録期間	2025年03月03日 ~ 2099年12月31日
報告レベル	医療機関等	確認レベル	県市

登録状況

報告担当組織:

指定週を基準に表示する 年 週

CSVファイル指定 選択されていません

登録状況一覧

<<先頭頁 前頁 次頁 最終頁>>

報告週	登録/確認ステータス
2025年11週	未登録
2025年10週	確認待ち

<<先頭頁 前頁 次頁 最終頁>>

⑪ [CSVテンプレートダウンロード] ボタンを押下し、ファイルをダウンロードします。

⑤ダウンロードしたCSVファイルを開きます。

A	B	C	D	E	F	AA
報告週 (yyyyww) 【必須】	任意管理 ID	急性呼吸器感染症（インフルエンザ、 COVID-19、小児科定点対象疾患（RSウ イルス感染症等）を含む合計数を登録） - 男10歳【必須】	急性呼吸器感染症（インフルエンザ、 COVID-19、小児科定点対象疾患（RSウ イルス感染症等）を含む合計数を登録） - 男11~4歳【必須】	急性呼吸器感染症（インフルエンザ、 COVID-19、小児科定点対象疾患（RSウ イルス感染症等）を含む合計数を登録） - 男5~9歳【必須】	急性呼吸器感染症（インフルエンザ、 COVID-19、小児科定点対象疾患（RSウ イルス感染症等）を含む合計数を登録） - 男10~14歳【必須】	備考【必須】
1						
2	202515		0	1	5	入力済み
3						

⑥報告週を入力します。（例：2025年第15週なら、202515と入力）
※任意管理IDは入力不要です。

⑦性別と年齢区分ごとに患者数を入力します。

⑧備考欄が必須入力となっているため、特記事項が
ない場合も「入力済み」と入力してください。

⑨入力が完了したらファイルを保存してください。

サーベイランス情報 登録・照会 > 登録/編集

登録状況確認 - サマリー

サーベイランス基本情報

サーベイランス名	定点報告・急性呼吸器感染症定点(合計数の報告)		
実施主体	国		
報告方式	サマリー方式	報告周期	週次
調査期間	2025年03月03日 ~ 2099年12月31日	登録期間	2025年03月03日 ~ 2099年12月31日
報告レベル	医療機関等	確認レベル	県市

登録状況
報告担当組織:
指定週を基準に表示する 年 週

CSVテンプレートダウンロード

CSVファイル指定 **ファイルを選択** | 選択されていません |

登録状況一覧

<<先頭頁 前頁 次頁 最終頁>>

報告週	登録/確認ステータス
2025年11週	未登録
2025年10週	確認待ち

<<先頭頁 前頁 次頁 最終頁>>

⑩ [ファイルを選択] から先ほど保存したファイルを選び、
[登録] ボタンを押下してください。

⑪登録処理完了後、エラーが表示されず、CSVで登録を行った報告週の、登録/確認ステータスの列が「確認待ち」と表示されていたら入力完了です。

データの修正方法（手入力による修正） ※要注意

※登録データの修正は、ステータスが「確認済み」の場合はシステムの操作を行う前に管轄の保健所へ必ず御連絡いただくようお願いいたします。

報告週	登録/確認ステータス
2025年10週	確認済み

①修正したい報告週を押下し、登録情報を呼び出します。

報告情報

任意管理ID

ゼロクリア

	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳
男	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>
女	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>

急性呼吸器感染症(インフルエンザ、COVID-19、小児科定点対象疾患(RSウイルス感染症等)を含む合計数を登録)

備考(必須)

更新 削除

②正しい数値を入力し直します。

② [更新] ボタンを押下し、入力情報を更新します。もしくは [削除] ボタンを押下して入力情報を削除し、再度新しく入力し直すことも可能です。

データの修正方法（CSVインポートによる修正） ※要注意

※登録データの修正は、ステータスが「確認済み」の場合はシステムの操作を行う前に管轄の保健所へ必ず御連絡いただくようお願いいたします。

サーベイランス情報 登録・照会 > 登録/編集

登録状況確認 - サマリー

サーベイランス基本情報

サーベイランス名	定点報告・急性呼吸器感染症定点(合計数の報告)		
実施主体	国		
報告方式	サマリ方式	報告周期	週次
調査期間	2025年03月03日 ~ 2099年12月31日	登録期間	2025年03月03日 ~ 2099年12月31日
報告レベル	医療機関等	確認レベル	県市

登録状況

報告担当組織:

指定週を基準に表示する 年 週

CSVテンプレートダウンロード

CSVファイル指定 選択されていません

登録状況一覧

<<先頭頁 前頁 次頁 最終頁>>

報告週	登録/確認ステータス
2025年11週	未登録
2025年10週	確認待ち

<<先頭頁 前頁 次頁 最終頁>>

再度CSVインポート登録を行うことで情報を上書きすることができます。 [ファイルを選択] から新たに修正済のファイルを選び、 [登録] ボタンを押下してください。

届出対象者の該当がなかった週の報告方法

報告情報

任意管理ID

ゼロクリア

	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳
急性呼吸器感染症(インフルエンザ、COVID-19、小児科定点対象疾患(RSウイルス感染症等)を含む合計数を登録)	男 <input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>
	女 <input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>

備考(必須)

入力済み

①各項目が0であることを確認します。

②備考欄に「入力済み」と入力してください。

一時保存 更新

③ [更新] ボタンを押下してください。

別添2

別記様式2

感染症発生動向調査（小児科定点）

週報

調査期間 年 月 日(月) ~ 月 日(日) 医療機関名: _____

疾患名		年齢		0~5	6~11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20歳	合計
		カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	以上	
RSウイルス感染症	男																	
	女																	
咽頭結膜熱	男																	
	女																	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男																	
	女																	
感染性胃腸炎	男																	
	女																	
水痘	男																	
	女																	
手足口病	男																	
	女																	
伝染性紅斑	男																	
	女																	
突発性発しん	男																	
	女																	
ヘルパンギーナ	男																	
	女																	
流行性耳下腺炎	男																	
	女																	
不明発しん症	男																	
	女																	
川崎病	男																	
	女																	

注) 感染性胃腸炎については、原因の如何に関わらず、届出基準に合致する患者を診断し、又は死体を検案した場合に届出を行うこと。

疾患名		年齢		0~5	6~11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	
		カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月
インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等 感染症をのぞく)	男																	
	女																	
		30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~69	70 ~79	80歳 以上	合計										
	男																	
	女																	

疾患名		年齢		0~5	6~11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	
		カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月
新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス 属のコロナウイルス(令和二年一 月に、中華人民共和国から世界保 健機関に対して、人に伝染する能 力を有することが新たに報告され たものに限る。))	男																	
	女																	
		30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~69	70 ~79	80歳 以上	合計										
	男																	
	女																	

疾患名		年齢		0歳	1~4	5~9	10	15	20	30	40	50	60	70	80歳	合計
		カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	カ月	以上	
急性呼吸器感染症*	男															
	女															

*急性呼吸器感染症の症例定義

咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁(びじゅう)、鼻閉(びへい)のどれか1つの症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※インフルエンザや COVID-19 等と診断された患者についても、急性呼吸器感染症の症例定義に該当する場合は、各疾患毎に報告いただくとともに、急性呼吸器感染症としてご報告をお願いいたします。また、急性呼吸器感染症の報告は、症例数を報告いただくサーベイランスのため、初診・再診

定点医療機関からのコメント

記入例① 通常の報告

感染症発生動向調査（小児科定点）

週報

調査期間 **令和●年4月6日(月) ~ 4月12日(日)**

医療機関名: **△△クリニック**

疾患名	年齢	0~5	6~11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20歳	合計
		カ月	カ月										~14	~19	以上	
RSウイルス感染症	男															
	女															
咽頭結膜熱	男															
	女															
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男															
	女					1										1
感染性胃腸炎	男		2		1								1			4
	女			1		3		1								5
水痘	男															
	女															
手足口病	男															
	女															
伝染性紅斑	男															
	女															
突発性発しん	男				1		1									2
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
流行性耳下腺炎	男															
	女															
不明発しん症	男															
	女															
川崎病	男															
	女															

注) 感染性胃腸炎については、原因の如何に関わらず、届出基準に合致する患者を診断し、又は死体を検案した場合に届出を行うこと。

疾患名	年齢	0~5	6~11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	
		カ月	カ月										~14	~19	~29	
インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等 感染症をのぞく)	男			1												
	女					2										
		30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~69	70 ~79	80歳 以上	合計								
	男							1								
女							2									

疾患名	年齢	0~5	6~11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20
		カ月	カ月											~14	~19
新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス 属のコロナウイルス (令和二年一 月に、中華人民共和国から世界保 健機関に対して、人に伝染する能 力を有することが新たに報告され たものに限る。))	男												1		
	女														
		30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~69	70 ~79	80歳 以上	合							
	男		4					5							
女			1		2		3								

急性呼吸器感染症の報告は症例定義に該当するすべての患者数を報告いただくため、「急性呼吸器感染症」の合計値≧インフルエンザ等の各呼吸器系感染症の合計値となることがほとんどです。

疾患名	年齢	0歳	1~4	5~9	10	15	20	30	40	50	60	70	80歳	合計
					~14	~19	~29	~39	~49	~59	~69	~79	以上	
急性呼吸器感染症*	男	3	5	3	8	2			4					25
	女		9	5	3	1	2			1		2		23

*急性呼吸器感染症の症例定義

咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁(びじゅう)、鼻閉(びへい)のどれか1つの症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※インフルエンザやCOVID-19等と診断された患者についても、急性呼吸器感染症の症例定義に該当する場合は、各疾患毎に報告いただくとともに、急性呼吸器感染症としてもご報告をお願いいたします。また、急性呼吸器感染症の報告は、症例数を報告いただくサーベイランスのため、

定点医療機関からのコメント

- ・インフルエンザは全員A型
- ・新型コロナウイルス感染症について、40~40歳 男 4名のうち1名は、死体を検案した結果によるもの。

**記入例② 該当患者が一人
もない場合
(全日休診の場合を除く)**

感染症発生動向調査 (小児科定点)

4月12日(日)

医療機関名: △△クリニック

疾患名	性別	年齢		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ~14	15 ~19	20歳 以上	合計
		0~5 ヵ月	6~11 ヵ月													
RSウイルス 感染症	男															
	女															
咽頭結膜熱	男															
	女															
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	男															
	女															
感染性胃腸炎	男															
	女															
水痘	男															
	女															
手足口病	男															
	女															
伝染性紅斑	男															
	女															
突発性発しん	男															
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
流行性耳下腺炎	男															
	女															
不明発しん症	男															
	女															
川崎病	男															
	女															

注) 感染性胃腸炎については、原因の如何に関わらず、届出基準に合致する患者を診断し、又は死体を検案した場合に届出を行うこと。

疾患名	年齢	性別	0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ~14	15 ~19	20 ~29	合計
			30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~69	70 ~79	80歳 以上									
インフルエンザ (鳥インフルエンザ及 び新型インフルエンザ 等感染症をのぞく)	男																
	女																

疾患名	年齢	性別	0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ~14	15 ~19	20 ~29	合計
			30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~69	70 ~79	80歳 以上									
新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス 属のコロナウイルス (令和二年一 月に、中華人民共和国から世界保 健機関に対して、人に伝染する能 力を有することが新たに報告され たものに限る。) であるものに限 る。)	男																
	女																

疾患名	年齢	性別	0歳	1~4	5~9	10 ~14	15 ~19	20 ~29	30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~69	70 ~79	80歳 以上	合計
			急性呼吸器感染症*	男											
	女														

*急性呼吸器感染症の症例定義

咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁(びじゅう)、鼻閉(びへい)のどれか1つの症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※インフルエンザや COVID-19 等と診断された患者についても、急性呼吸器感染症の症例定義に該当する場合は、各疾患毎に報告いただくとともに、急性呼吸器感染症としてもご報告をお願いいたします。また、急性呼吸器感染症の報告は、症例数を報告いただくサーベイランスのため、

定点医療機関からのコメント

全て0件